

就職のための「就活」ならぬ、結婚のための「婚活」が、働く未婚男女の間で話題を集めている。最近では、カリスマ的な女性仲人が活躍するなど、伝統的な「お見合い」も見直されている。今年から「仲人」の資格認定制度もスタートした。

# 「仲人」が結婚後押し

お見合いパーティー、合コンなど様々な男女の出会いの場があるが、「お見合いは結婚したい男性だけが集まる市場なので、ピンポイントで婚活するのに向いている」と話すのは、関西を中心に仲人として活躍する山田由美子さん。写真。

山田さんは28歳で離婚した後、大手結婚情報会社に入会。1年間に80人の男性とお見合いし、再婚した。そこで経験した「お見合いの楽しさを伝えたい」と、1997年に結婚相談所を開業。年間で20〜30組を成婚させるカリスマ仲人だ。

昨年11月に活動が新聞で紹介されると、5000件以上の問い合わせ電話が殺到した。山田さんが主宰する「お見合い塾」の会員は現在、20〜40代の独身女性を中心に3000人だが、約1000人が入会待ち状態という盛況ぶりだ。

「結婚したい30代の女性にこそ、お見合いを勧めたい。お見合いは、今の時代にもっとも必要とされる的確な場」と山田さんは断言する。昨年出版した「本気で結婚したい人のお見合い活動マニュアル」(飛鳥新社)では、結婚情報サービス会社、お見合いなど4つの結婚相談システムの特徴を紹介。一見、好みのタイプではなくても、磨き方、育て方次第で光る異性を見つけたケースなど、自身の経験も踏まえて様々な事例を紹介している。

NPO法人全国結婚相談業教育センター(本部・大阪市)は今年1月、料金、法律、適切な対応などの面から「仲人」を認定し、資格を与える制度をスタート。第1回の試験で22人の仲人が誕生した。同センターは今後、職業として認知されるよう後進の育成にも力を注いでいく。

山田さんも22人の1人として資格を取得した。「仲人の役割は、相談者の話を聞き、プラスアルファの助言をしながら、二の足を踏んでいる相談者の背中を押してあげること。私たちは、お預かりした人を『お客さん』と見ていません。時に、相談者にとっては、厳しいことも言う。相手との信頼関係があってこそ成り立つ仕事」と語る。「仲人になりたい人は増えている」とも。

## NPOが認定制度 年20〜30組成婚のカリスマも

パソナグループが運営する若者の就労支援組織「自立人(フリーター)協会」が、20代を中心とする若者の結婚に関する意識調査をしたところ、回答者183人の91%が「結婚したい」「どちらかといえど結婚したい」と回答。結婚が「必要」「どちらかといえど必要」と思う若者も、男性で61%、女性で67%に上った。

しかし、2005年の国勢調査では、30〜34歳男性の47%、同女性の32%が未婚で、10年前に比べ、男性で約10%、女性で約13%も上昇している。

### 日曜求人

企画・制作 読売新聞東京本社広告局

